

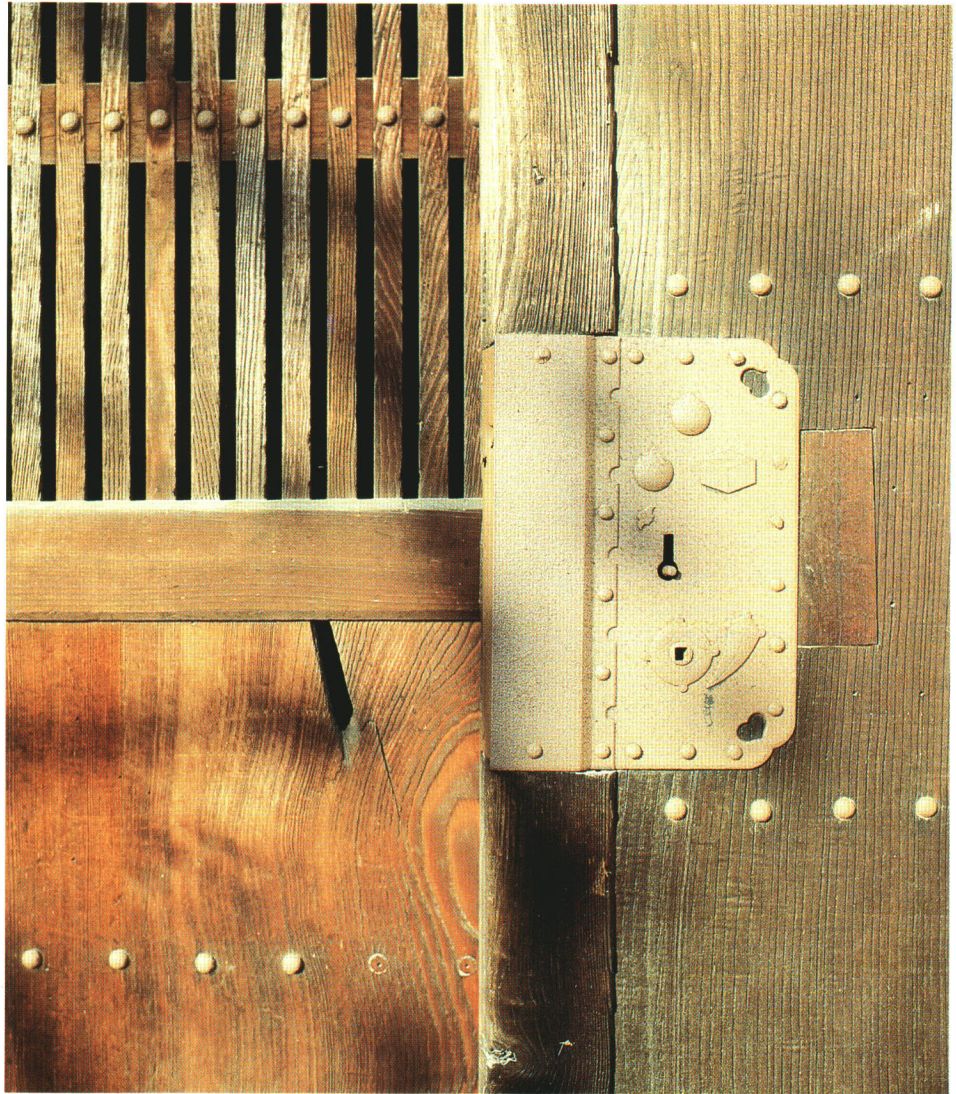
# 散

②

# 歩

四季折々移り変わる情景、  
豊かな季節の恵みとその温もり。

# 道



The Roman  
of Kitakata

## 風の吹く頃に

Four Seasons

四季の変化に富む喜多方では、移ろう季節それぞれが、走馬灯のように色鮮やかにめぐり来る。水がぬるみ、家々をすっぽりと覆っていた雪がようやく解けはじめる三月初旬、春を待ちかねたように、人も花も木も鳥もにわかには活気づく。春から初夏に向けて、喜多方は百花繚乱の季節を迎える。田圃には水が張られ、抜けるような蒼空に飯豊連峰の残雪が目には沁みるほど眩しい。ミズバショウ、レンゲツツジ、ニッコウキスゲなどの高山植物が咲き乱れるのもこの季節である。

山に囲まれた盆地である喜多方の夏は、じつとりとした蒸し暑さが続く。旧盆の八月十五日には、若者たちの手で創り出された「蔵太鼓」の競演が見られる。新しい時代の喜多方を象徴するエネルギー祭である。

秋の訪れは早い。熊野神社大祭が行われる九月初旬には、金色の稲穂が秋風に揺れる。収穫の秋には、良質の喜多方米のほか、葡萄、林檎など多土済々の果実がたわわに実る。

初冬を迎える十一月のはじめには、杜氏たちによる地酒の仕込みがはじまる。人々は冬支度に忙しく、遠い山々からは初冠雪の便りが届き、いよいよ厳しい冬の到来を告げる。